水稲の生育状況と今後の管理対策（第４号）

令和２年７月１日
新潟県農林水産部

〔６月 30 日現在の生育状況〕

コシヒカリ

◎　指標値（生育のめやす）に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」で、生育は３日程度早い状況です。

新　之　助

◎　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。

（参考）こしいぶき、ゆきん子舞、つきあかり

○　長岡市に設置した調査ほ場では、つきあかり（５月７日植え）は６月 28 日、ゆきん子舞（５月１日植え）は６月 30 日に幼穂[*1]形成期を迎え、こしいぶき（５月 11 日植え）は６月 30 日時点で、幼穂が確認され始めている状況です。

〔気象予報と今後の生育見込み〕

◎　６月 25 日発表の１か月予報（６月 27 日から７月 26 日まで）によると、平均気温は平年より高い確率が 60%、降水量と日照時間はほぼ平年並の見込みです。

◎　高温気象により、水稲の生育は平年より進んだ状況が続き、幼穂形成期および出穂期は平年より２～３日程度早まる見込みです。

〔管理対策のポイント〕　★は重要ポイント

早 生 品 種

★　生育が早まっています。ほ場で幼穂長を確認し、地域の農業普及指導センターや JA 等の技術情報を参考にして、穂肥[*2]を適期に確実に施用してください。

★　特に多収性品種では収量確保のため、適正な穂肥施用を徹底し、出穂期までの葉色を確実に維持してください。

・　中干（なかぼ）し[*3]終了後は、浅水の間断かん水[*4]を行い、徐々に飽水管理[*5]へ移行してください。

★　斑点米カメムシ類の多発生の注意報が出ています。カメムシ類の密度を抑えるため、計画的な除草と防除を行ってください。

・　葉いもちの本田初発生が確認されています。葉いもちの早期発見に努め、病斑を確認した場合は、速やかに薬剤防除を行ってください。

コシヒカリ

★　**出穂期は平年より２～３日程度早まる見込みです。出穂期の１か月前までに中干しを終了し、終了後は浅水の間断かん水を行い、徐々に飽水管理へ移行してください。**

・　平年並の降水量が見込まれていますが、強すぎる中干しは根を傷め、出穂前および出穂後の葉色低下が大きくなり、高温気象では基部未熟粒が多発して１等級比率の低下につながります。大きなヒビにならないよう走り水かん水を行い、過度の土壌乾燥を防いでください。

・　停滞水の排水やフェーン等の異常高温時に速やかなかん水が行えるよう、溝の手直し、タテ溝とヨコ溝の連結、水口と水尻とのつなぎを確認してください。

★　**高温が続く見込みです。著しく葉色の低下が見られるほ場では、品質低下を軽減させるため、ケイ酸質資材を施用するなどの対策を検討してください。**

★　**アカスジカスミカメの６月下旬の畦畔すくい取り虫数が多く、斑点米が多発生する可能性があります。カメムシ類の密度を抑えるため、計画的な除草と防除を行ってください。**

新　之　助

★　**「食味・品質基準」を達成するため、生育量が指標値に比べ大きくなっているほ場では、強めに中干しを行い、茎数の増加を抑えてください。**

・　全量基肥施肥*6 では６月末頃に葉色がやや濃くなるので、病害虫発生予察情報に注意し、葉いもちの発生を確認した場合は、薬剤防除を徹底してください。

*1 幼穂：穂が出る前の生長途中の穂
*2 穂肥：穂が出る前に追肥すること
*3 中干し：田の水を落として、一時的に田を乾かすこと
*4 間断かん水：たん水状態と落水状態を数日間隔で繰り返す水管理方法
*5 飽水管理：土壌を湿潤状態に保つこと
*6 全量基肥施肥：全生育期間に必要な肥料成分を、田植え前又は田植え時に一括して施す施肥法

熱中症予防と農作業安全

★　**蒸し暑い気象が見込まれます。農作業時は水分補給や休憩時間を十分に確保するなどの熱中症予防と健康管理に十分注意してください。**

・　ほ場畦畔の草刈り作業では周囲に気を配り、農作業事故の防止に努めてください。

◎　今後の管理対策発信予定日
７月９日・21 日・28 日・31 日、８月 21 日、９月 11 日

〔補足資料〕

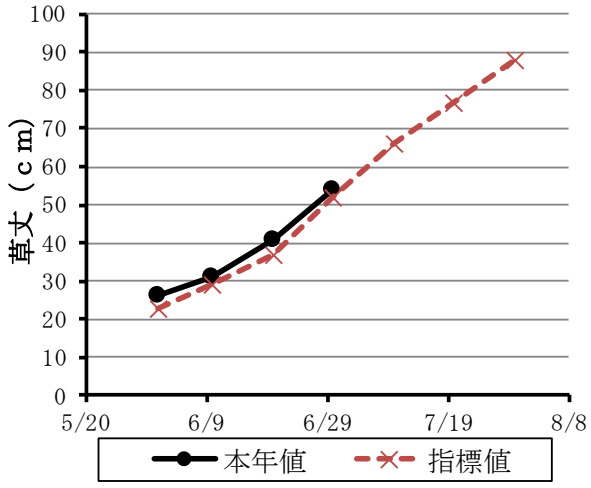
1　農業普及指導センター及び作物研究センターの生育状況（６月 30 日現在）

コシヒカリ

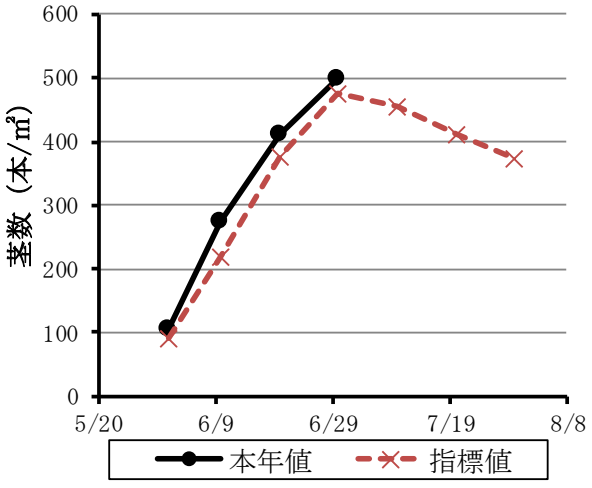
○　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	54 cm	52 cm	並	104%
茎数	499 本/㎡	475 本/㎡	やや多い	105%
葉数	10.3 葉	9.9 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色（SPAD 値）	37.6	38.5	並	-0.9

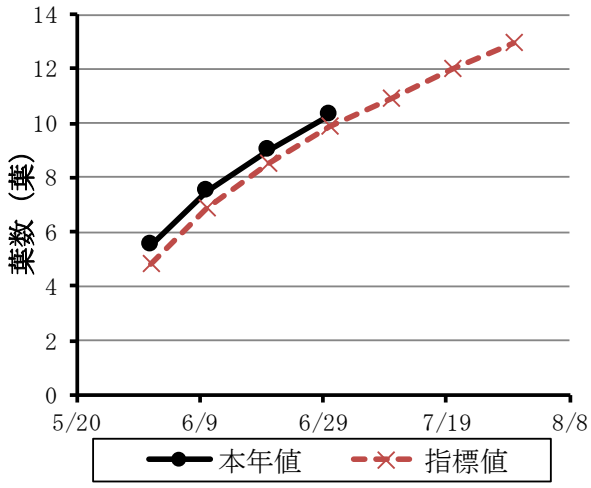
注）県内全域の 117 生育調査ほデータの平均値（田植え５月 10 日、栽植密度 16.9 株/㎡）



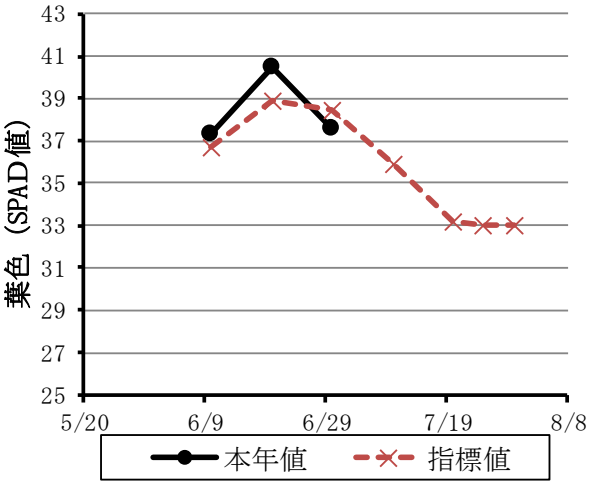
草丈の推移
（県全体）



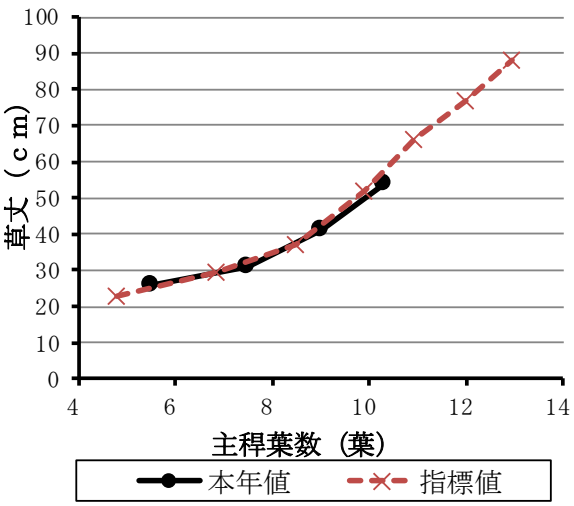
茎数の推移
（県全体）



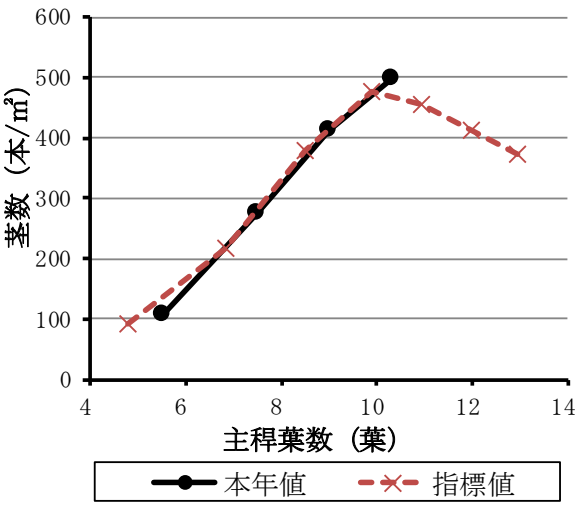
葉数の推移
（県全体）



葉色の推移
（県全体）



葉数と草丈
（県全体）



葉数と茎数
（県全体）

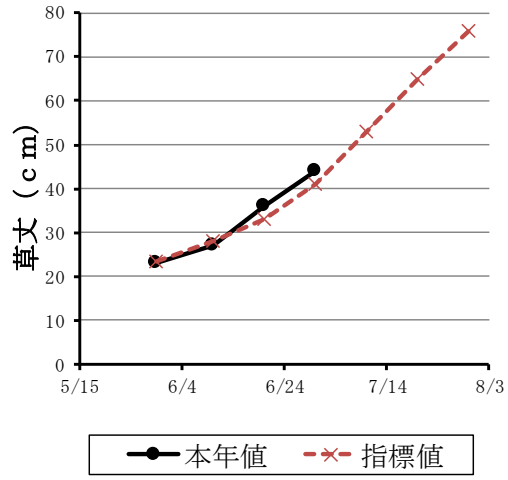
飽水管理
（足跡に水がたまっている状態）

新之助

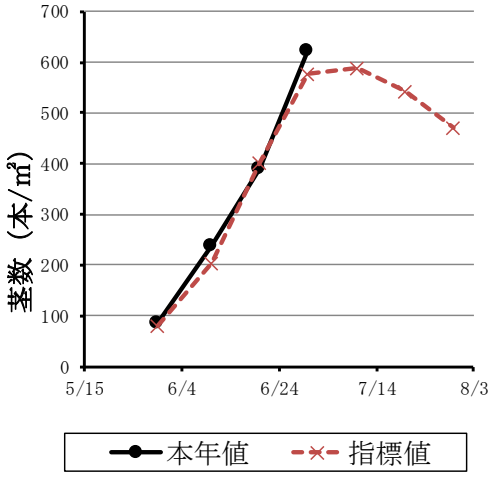
○　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「やや多い」、葉数の進みは「やや早い」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値（県平均）	指標値との比較	指標値比・差
草丈	44 cm	41 cm	やや長い	107%
茎数	624 本/㎡	577 本/㎡	やや多い	108%
葉数	10.5 葉	10.1 葉	やや早い	+0.4 葉
葉色（SPAD 値）	37.4	37.4	並	±0.0

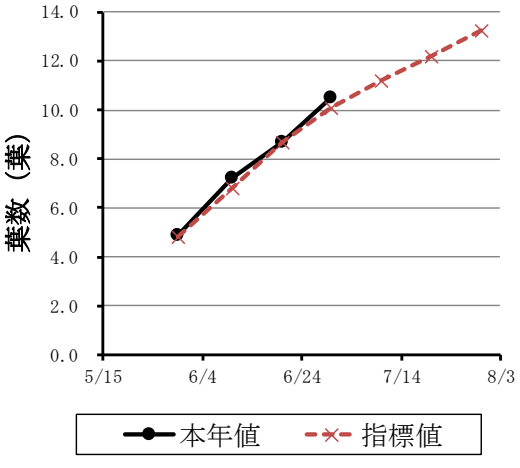
注）県内全域の 15 生育調査ほデータの平均値（田植え 5 月 17 日、栽植密度 16.0 株/㎡）



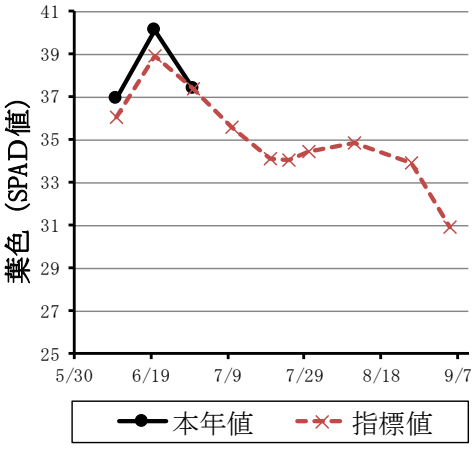
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

こしいぶき

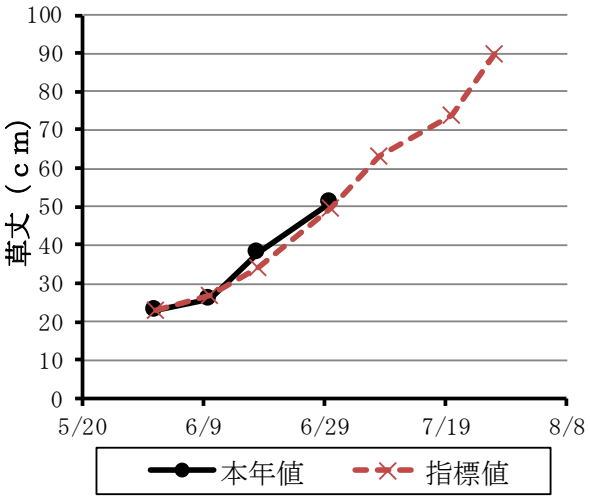
○　指標値に比べ、草丈は「並」、茎数は「やや少ない」、葉数の進みは「早い」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	51 cm	50 cm	並	102%
茎数	553 本/㎡	607 本/㎡	やや少ない	91%
葉数	10.8 葉	10.1 葉	早い	+0.7 葉
葉色（SPAD 値）	39.2	39.5	並	−0.3

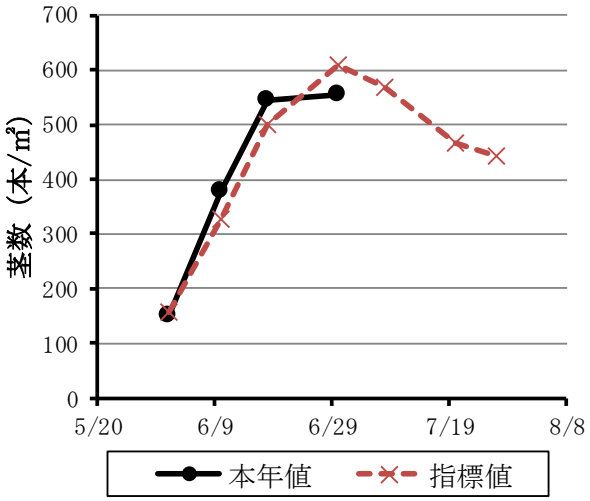
注１）化学肥料栽培　田植え５月 11 日、栽植密度は 19.8 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　3.0kg/10a

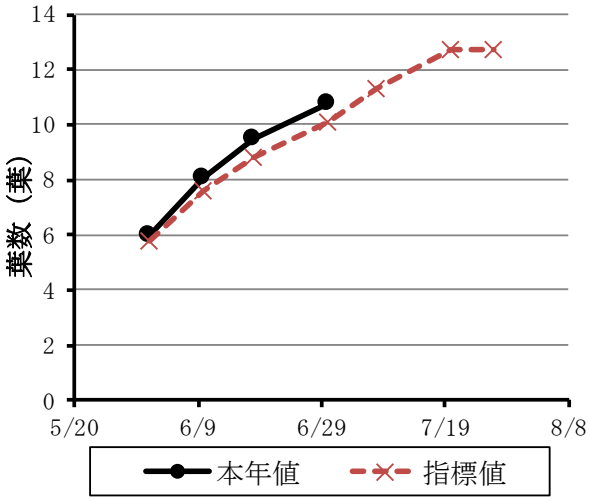
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



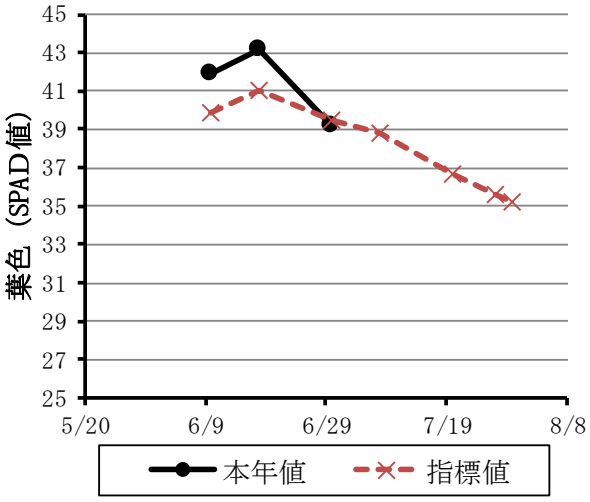
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

ゆきん子舞

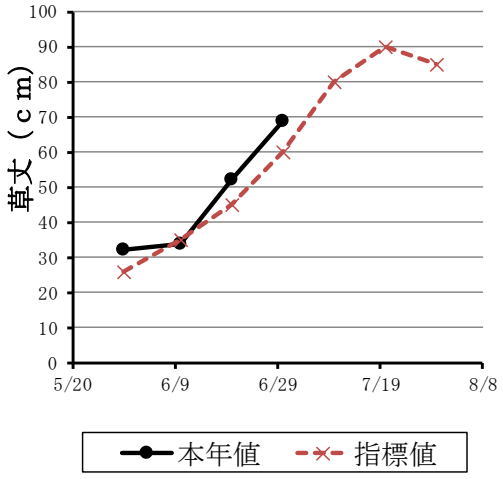
○　指標値に比べ、草丈は「長い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「早い」、葉色は「並」の状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	69 cm	60 cm	長い	115%
茎数	550 本/㎡	640 本/㎡	少ない	86%
葉数	11.0 葉	10.0 葉	早い	+1.0 葉
葉色（SPAD 値）	39.2	39.0	並	+0.2

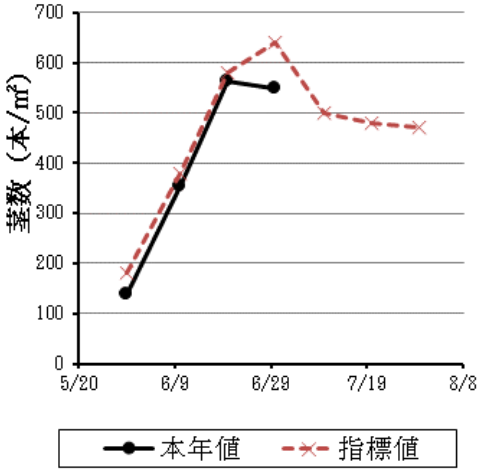
注１）化学肥料栽培　田植え５月１日、栽植密度は 18.6 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　2.8kg/10a（前作枝豆）

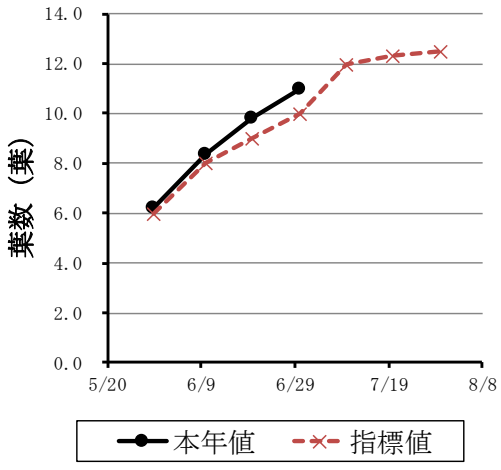
注３）長岡市高野町の生育調査ほデータ



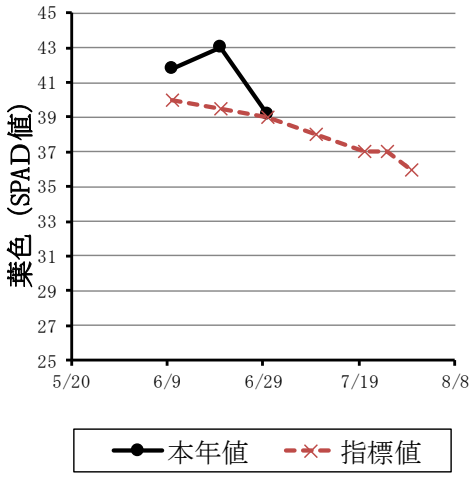
草丈の推移



茎数の推移



葉数の推移



葉色の推移

つきあかり

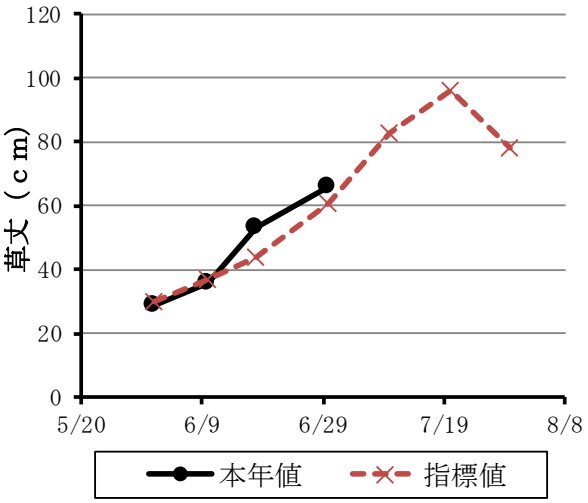
○　指標値に比べ、草丈は「やや長い」、茎数は「少ない」、葉数の進みは「早い」、葉色は「やや淡い」状況です。

項目	本年値	指標値	指標値との比較	指標値比・差
草丈	66 cm	61 cm	やや長い	108%
茎数	459 本/㎡	520 本/㎡	少ない	88%
葉数	10.5 葉	9.8 葉	早い	+0.7 葉
葉色（SPAD 値）	43.2	45.0	やや淡い	-1.8

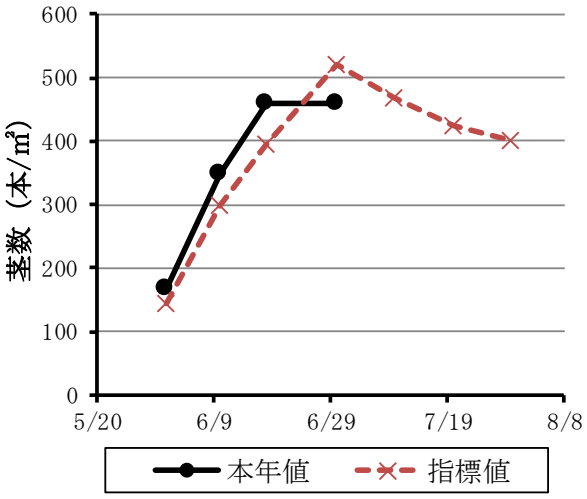
注１）化学肥料栽培　田植え５月７日、栽植密度は 21.2 株/㎡

注２）基肥窒素成分量　7.0kg/10a、穂肥窒素成分量　3.0kg/10a(6 月 29 日)

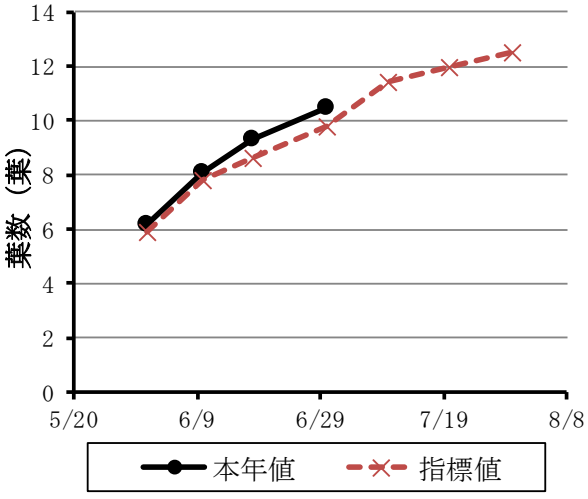
注３）長岡市長倉町（作物研究センター）の生育調査ほデータ



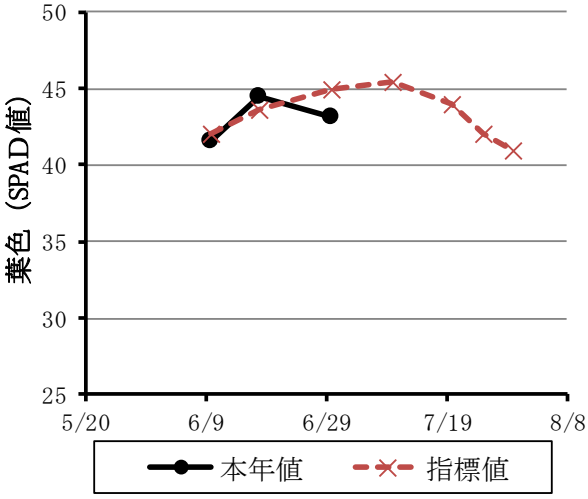
草丈の推移



茎数の推移



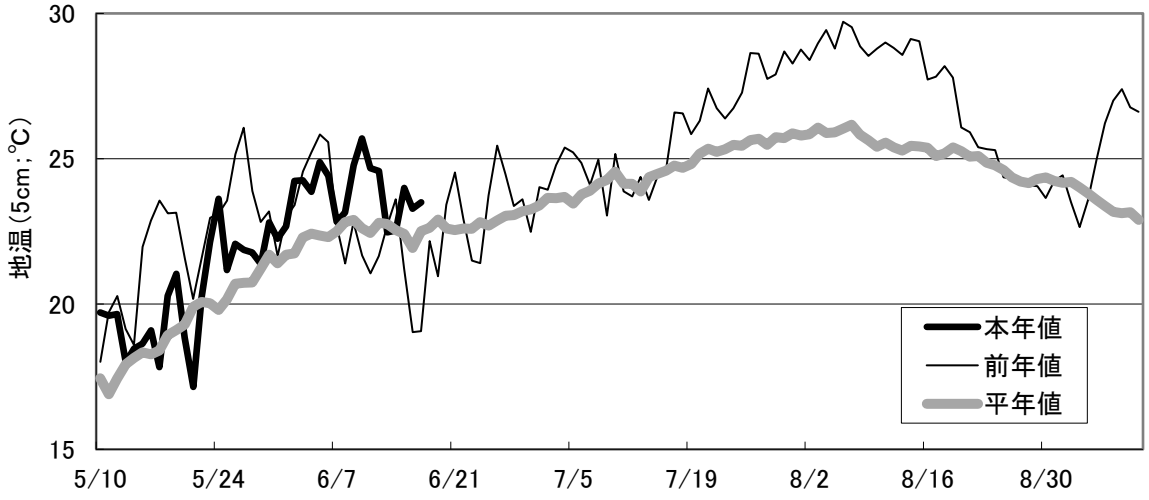
葉数の推移



葉色の推移

2　地力窒素（ちりょく）の発現状況

○　６/18～６/29 の期間の日平均地温は平年差＋1.1℃で、この期間の地力窒素の発現量は、平年よりやや多く、条間窒素の残存量は平年並に低下しています。



地温（５㎝）の推移

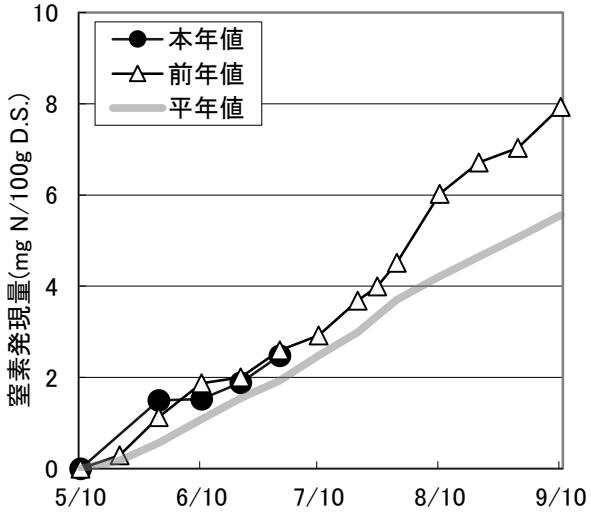
地力窒素の発現状況（農総研基盤研究部調査）　　(mgN/100g)

	６月 18 日①	６月 29 日②	地力窒素発現量※1 (③＝②－①)
本年値	4.0	4.5	0.5
前年値	5.6	6.2	0.6
平年値	3.9	4.2	0.3

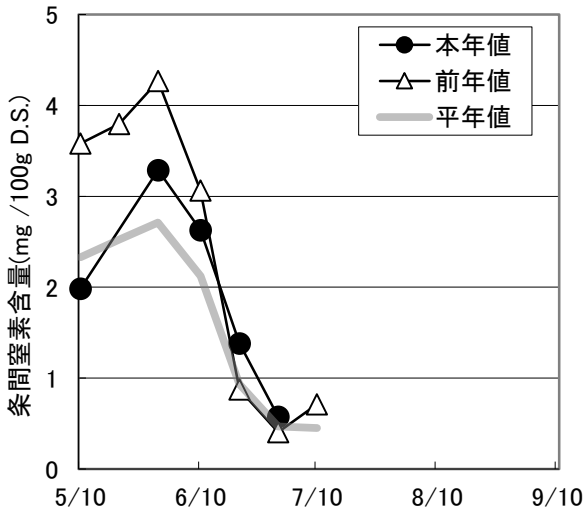
※１　小数点２ケタ目の四捨五入の関係で、表中の数値の引き算と合わない場合がある。

※２　化学肥料でＮ成分 3.5kg/10a 施用。移植日：本年５月 11 日（平年５月 10 日）。

※３　採取日は６月 18 日、地温データは採取前日までの６月 17 日まで。



地力窒素の発現推移
（初期値を０とした）



条間窒素含有量の推移